

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00415

研究課題名(和文) 15世紀イングランドの教会改革における大陸由来の女性神秘家の著作の翻訳とその影響

研究課題名(英文) The influence of vernacular visionary texts of continental female mystics on fifteenth-century church reform in England

研究代表者

久木田 直江 (Kukita, Naoe)

明治大学・研究・知財戦略機構(和泉)・研究推進員(客員研究員)

研究者番号：00271693

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ヘンリー5世が主導する教会改革の霊的規範となった大陸の女性神秘家の著作を通して、中世末イングランドの宗教文学が複雑な神学状況を反映しているかを検討した。大陸の神秘主義著作はラテン語で流通したが、14世紀末には、中英語への翻訳が始まり、俗語読者に広がった。15世紀初頭に中英語に翻訳されたハッケボーンのメヒティルドの『霊的な恩寵の書』(The Boke of Gostely Grace)はその代表的なテキストである。本研究では同書の写本を校訂し、さらに同書の論文集の編集を通して、翻訳宗教文学としての歴史的・宗教的コンテクストを考察し、メヒティルドの啓示文学が果たした役割を論考した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、Liber specialis gratiaeの中英語訳を含む写本、Oxford, MS Bodley 220の校訂本、The Boke of Gostely Grace: The Middle English Translation, ed. by Naoe Kukita Yoshikawa et al. (2022)を刊行し、国内外の中世英文学研究に新たな一次資料を提供し、さらに姉妹編 A Companion to the Boke of Gostely Graceを編集し、大陸の女性神秘家の著作の国際流通と影響について先端的研究を公開し、グローバルな学術の発展に貢献した。

研究成果の概要(英文)：The Boke of Gostely Grace, is a Middle English translation of the Liber specialis gratiae by the German visionary Mechthild of Hackeborn who was a Benedictine nun at the convent of Helfta (now in Germany). The Boke of Gostely Grace emerged following Archbishop Arundel's Constituciones of 1409, the legislation issued to counter the ideological political struggles that Lollardy had precipitated. The Boke reflects the politico-religious tension of the late fourteenth and early fifteenth centuries.

This new edition and the Companion to 'The Boke of Gostely Grace add momentum to the current interdisciplinary and theoretical debate surrounding Latin texts disseminated in the continent (including those of Birgitta of Sweden and Catherine of Siena) and their translations into the vernaculars, including a number of issues regarding women's literary culture in England.

研究分野：中世英文学

キーワード：ハッケボーンのメヒティルド ヘルフト修道院 サイオン修道院 Liber specialis gratiae Boke of Gostely Grace Oxford, MS Bodley 220

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

グレゴリウス改革に代表される教会改革が推進された12世紀以来、大陸を中心に神秘主義思想は深化した。特に、12世紀ドイツの修道女、ピンゲンのヒルデガルト(1098-1179)、13世紀のヘルフタ修道院(ドイツ・ザクセン地方)のハッケボーンのマヒティルド(1240-1298)とヘルフタのゲルトルート(大ゲルトルート)(1256-1302)、リエージュのベギン、ワニエのマリー(1177-1213)、さらに14世紀のスウェーデンの聖ビルギッタ(1303-1370)、シエナの聖カタリナ(1347-1380)、等は神秘的経験を自ら記録、あるいは、口述写本として残し、後世のキリスト教徒に霊的影響を与えた。中世後期、キリスト教会が内的・外的改革を問われるたびに、女性神秘家の霊性や教訓的預言は回顧・参照され、教会改革を後押しした。近年、大陸とイングランドのあいだで繰り広げられた文化交流が、写本の伝播、俗語への翻訳、さらにジェンダーの視点を含めた多様な観点から検討されている。報告者は国内外の学会で、このような西洋中世研究の学術的動向を確認し、本研究に着手した。

### 2. 研究の目的

中世後期のイングランドに流入した女性を中心とする神秘家の著作は各修道会のエリートにあいだに浸透し、同時に、異端ロラード派や低地地方から到来した「新しい信心(*devotio moderna*)」に揺さぶりをかけられるなか、神秘主義思想の急速な広がりを懸念する教会当局の監視をすり抜け、信仰篤い平信徒に受容され、「心の内なる改革」を促した。ヘンリー5世が推進する教会改革の本丸、ビルギッタ修道会・サイオン修道院の活動のなかには神秘主義的著作への関心が顕著に見られるが、同修道院を中心に大陸由来の女性神秘家の著作が俗語(中英語)に翻訳されたことは刮目に値する。本研究の目的は、ハッケボーンのマヒティルドの著作、『特別の恩寵の書』(*Liber specialis gratiae*, 1298/99年)とその中英語訳、*The Boke of Gostely Grace*(綴りはOxford Bodleian Library, MS Bodley 220に準拠)を中心に、サイオン修道院から広がったスウェーデンの聖ビルギッタの*Liber celestis*とシエナの聖カタリナの*Dialogo*等の書物の汎ヨーロッパ性を視野に入れつつ、15世紀イングランドの教会改革における翻訳宗教書が(特に女性読者に)果たした役割を検討することにある。

### 3. 研究の方法

*Liber specialis gratiae*は、ハッケボーンのマヒティルドが得た啓示をヘルフタの二人の修道女が聞き取り、ラテン語で書き起こした書物(*Revelationes Gertrudianae ac Mechtildianae*, ed. Dom Ludwig Paquelin, 2 vols, Paris: H. Oudin, 1875-77, II, pp. 1-422)であり、ヘルフタ修道院で先唱者として修道院の典礼を指導したマヒティルドの霊性を今に伝えている。同書は主に14-15世紀に中高ドイツ語、中英語、中世オランダ語、イタリア語、フランス語などのヨーロッパ諸言語に翻訳され、全ヨーロッパに展開した。多くの写本や初期印刷本がラテン語で残り、俗語翻訳も確認できることから、マヒティルドの啓示は汎ヨーロッパ的影響力を持っていたと考えられる。中英語テキストは*The Boke of Gostely Grace*(『霊的な恩寵の書』)と題され、ロンドン近郊のビルギッタ会・サイオン修道院の修道女たちから、読み書きの能力を身に付け、宗教書への関心を高めていた貴族や裕福な女性平信徒へと広がった。貴族の読者には、ヨーク公妃セシリー・ネヴィル(1415-95年)やリチャード3世等が含まれる。本研究では、2015年から継続的に取り組んできた、Oxford, Bodleian Library, MS Bodley 220に含まれる*The Boke of Gostely Grace*の校訂本を刊行し、続いてその姉妹編として、中英語翻訳とヨーロッパ諸言語の翻訳に関する論集*A Companion to The Boke of Gostely Grace*を編集・刊行することを研究方法の柱とした。

さらに、本研究では中世末のイングランドでラテン語から俗語に翻訳された宗教文学として、マヒティルド、ビルギッタ、カタリナの著作をひとつのグループとして研究するよう提唱したVincent Gillespie議論(2011年)をさらに発展させ、ビルギッタとカタリナが、大陸で流通していたマヒティルドの著作(ラテン語・俗語)の読者であったことをテキスト分析と歴史的コンテクストにおいて検証し、彼女らがマヒティルドの霊性から多大な影響を受けて自らの霊的経験を書き残したと云う、先行研究で見過ごされてきた観点到る方法をとった。

### 4. 研究成果

中世末のイングランドの宗教文学は大陸及びイングランドにおける当時の複雑な神学状況と宗教界の動向を反映している。特に、教会大分裂、異端ヤン・フス、スウェーデンの聖ビルギッタ列聖を審議したコンスタンツ公会議(1414年)は制度的教会改革と内的な霊的刷新両面における、大陸とイングランドの重要な結節点となり、この会議を機に宗教書の国際流通は強化され、読者層が大きく変化した。大陸の神秘主義的著作の中でも、13世紀、神秘主義思想とスコラ学教育で栄えたヘルフタ修道院の修道女ハッケボーンのマヒティルド

ドが著わした *Liber Specialis Gratiae* (『特別な恩寵の書』) はサイオン修道院ないしはテムズ川対岸に位置した、シーンのカルトジオ修道会で英訳され、*The Boke of Gostely Grace* と題された。この翻訳版は幾度も写字生によって書き写され、読者は修道者から在俗信徒へと拡大した。中英語訳の写本は MS Bodley 220 と London, BL, MS Egerton 2006 で現存する。本研究では、*Liber specialis gratiae* の中英語訳、*The Boke of Gostely Grace* を含む写本、Oxford, Bodleian Library, MS Bodley 220 の校訂を完成させ、*The Boke of Gostely Grace: The Middle English Translation, A Critical Edition from Oxford, MS Bodley 220*, ed. by Naoë Kukita Yoshikawa and Anne Mouron with the assistance of Mark Atherton, Exeter Medieval Texts and Studies (Liverpool: Liverpool University Press, 2022) として刊行し、国内外の中世英文学研究に新たな一次資料を提供し、主に Introduction と Commentary において最新の研究を公開した。特に、神秘主義的テキストと教化テキストとのあいだで起こる反発、包摂に鑑み、メヒティルドのテキストが、正統的な教化という前提のもとで、その神秘主義的言説を歪められた可能性を精査した。そこから、翻訳に際し、女性読者を対象にしたことによって、translator/editor/redactor がラテン語テキストをいかに操作・編集したかを明らかにした。

さらに、同 Edition を主たる一次資料として、14 - 15 世紀の神秘主義文学、ヨーロッパ諸言語に翻訳され、全ヨーロッパに展開した *Liber specialis gratiae* を総合的に論じる、論文集 *The Companion to the Boke of Gostely Grace: The Middle English Translation and its European Vernacular Contexts*, ed. Naoe Kukita Yoshikawa and Anne Mouron, Exeter Medieval Texts and Studies (Liverpool: Liverpool University Press, in press, July 2024) を編集し、第一部では各国語の翻訳、続く第二部では中英語テキストに見られる 15 世紀イングランドでのメヒティルドの霊性の受容、第三部ではラテン語テキスト *Liber specialis gratiae* とヘルフタのゲルトルートが著した *Legatus divinae pietatis* の関係を扱い、大陸の女性神秘家の著作の国際流通とイングランドの宗教文学に与えたインパクト明らかにした。

また、メヒティルドの *Liber specialis gratiae* とビルギッタとカタリナの著作を対比・比較し、メヒティルドの著作に見られる信仰の内面化と霊的規範を軸に、ヘルフタ修道院の神秘的霊性の伝播を検証した。汎ヨーロッパ性を視野に入れ、固有の語彙、集団内の独自の約束事を助長し、固有性を高める傾向にある神秘主義文学の特徴に鑑み、個々人の信仰における内面性を涵養し、「心の内なる改革」の中核を形成すると認識された三人の女性神秘家に共通する固有性を明らかにし、複数の英語論文を重要な論文集で公開した。

以上の研究を通して、多言語で編纂、流通した様々な宗教文学を他分野の知見を活用しつつ、汎ヨーロッパ的文脈で大陸由来の神秘主義文学がイングランドの教会改革に果たした役割を総合的に論じ、15 世紀イングランドの宗教文学の実相について論考した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Liz Herbert McAvoy and Naoe Kukita Yoshikawa	4. 巻 4
2. 論文標題 ‘Mechthild of Hackeborn and Margery Kempe: An Intertextual Conversation’	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Spicilegium	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 久木田直江	4. 巻 11
2. 論文標題 「教皇庁の混迷を越えて 大陸（出身）の女性神秘家が導くイングランドの教会改革」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 63 - 77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Naoe Kukita Yoshikawa
2. 発表標題 ‘Nature, Topography and Spiritual Health: Holy Women’s Writing at Helfta and Siena’
3. 学会等名 Gender and Medieval Studies Conference, 2020: Gender, Science and the ‘Natural World’ (Swansea University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Liverpool University Press	5. 総ページ数 356
3. 書名 ‘A trefold corde of te colour of gold from our lordes herte’: Holy Mediatrix and Holy Solidarity in Mechthild of Hackborn’s Boke of Gostely Grace’, in A Companion to The Boke of Gostely Grace: The Middle English Translation and its European Vernacular Contexts, ed. Yoshikawa and Mouron	

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa and Anne Mouron	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Liverpool University Press	5. 総ページ数 356
3. 書名 A Companion to the The Boke of Gostely Grace: The Middle English Translation and its European Vernacular Contexts	

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Brepols	5. 総ページ数 364
3. 書名 'The Boke of Gostely Grace and The Orchard of Syon: Revelations of "aprouyd wymmen" and their Readership in Fifteenth-century England', in Medieval Translations and their Readers, Medieval Translator, 10, ed. Pavlina Rychterova and Jan Odstrcilik	

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Brepols	5. 総ページ数 281
3. 書名 '"Fluvius autem de Corde Dei egredibatur": Medicalised Discourse and Holy Women's Writing at Helfta and Siena', in Writing Holiness across Boundaries: Gender, Genre, and the Study of Sanctity, ed. Jessica Barr and Barbara Zimbalist	

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Cambridge University Pres	5. 総ページ数 487
3. 書名 'Embracing the Body and the Soul: Women in the Literary Culture of Medieval Medicine', in Women and Medieval Literary Culture: From the Early Middle Ages to the Fifteenth Century, ed. Corinne Saunders and Diane Watt	

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 D. S. Brewer	5. 総ページ数 328
3. 書名 'Cecily Neville's Devotional Library: Networks of Readers and Models of Female Piety', in Women, Words and Devotional Literature in the Later Middle Ages: Giving Voice to Silence, Essays in Honour of Catherine Innes-Parker, Cate Gunn, Liz Herbert McAvoy and Naoe Kukita Yoshikawa	

1. 著者名 Cate Gunn, Liz Herbert McAvoy and Naoe Kukita Yoshikawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 D. S. Brewer	5. 総ページ数 328
3. 書名 Women, Words and Devotional Literature in the Later Middle Ages: Giving Voice to Silence, Essays in Honour of Catherine Innes-Parker	

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa, Anne Mouron with the assistance of Mark Atherton	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Liverpool University Press	5. 総ページ数 649
3. 書名 The Boke of Gostely Grace: The Middle English Translation, A Critical Edition from Oxford, MS Bodley 220	

1. 著者名 久木田直江	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 289
3. 書名 『『女性の医学』 西洋中世の身体とジェンダーを読み解く』岩波講座 世界歴史 9 『ヨーロッパと西アジアの変容 11~15世紀』(大黒俊二・林佳世子編)所収	

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa	4. 発行年 2023年
2. 出版社 D.S. Brewer	5. 総ページ数 356
3. 書名 'Women's Writing in the Japanese Heian Period: A Medieval Dialogue between the East and West', in Women's Literary Culture and the Canon in the Global Middle Ages: Speaking Internationally,	

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa, Liz Herbert McAvoy	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Manchester University Press	5. 総ページ数 328
3. 書名 'The intertextual dialogue and conversational theology of Mechthild of Hackeborn and Margery Kempe', in Encountering The Book of Margery Kempe, ed. Laura Kalas and Lura Varnam	

1. 著者名 Naoe Kukita Yoshikawa (久木田直江), Vincent Gillespie, Ralph Hanna, Ian Johnson, Annie Sutherland, Nicole Rice, Michael Sargent, Laura S Miles, Denis Renevey, Anne Mouron, Mami Kanno, A Lazakani, Nicholas Watson, Marleen Cre, Sarah McMillan, Diana Denissen	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Brepols	5. 総ページ数 466
3. 書名 'The Liber specialis gratiae in a Devotional Anthology: London, British Library, MS Harley 494', in 'This tretice, by me compiled': Late Medieval Devotional Compilations in England, ed. Marleen Cre, et al.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------